

せいけん
詩集

第百三十六篇

作：近藤せいけん

「黄花色の秋桜」
きはないろ コスモス

黄花色の秋桜
きはないろ コスモス

可憐に 少し寂しそうに
かれん さび

裏庭に咲いた
うらにわ

私の幼い日々の 思い出
わたしのおきな ひび

母に手を引かれ 幼稚園に
はは ようちえん

向かう小路 秋風に揺れる
む こみち あきかぜ ゆ

黄花色の秋桜 そして母の顔
きはないろ コスモス

母の優しさが手のぬくもりが
やさ

いまでも 忘れない
わす

今 孫の手を引き 小路に咲く
いま こまご

秋桜の中を歩いています
コスモス

思い出は いつまでも昔のまま
むかし

心に浮かぶ 母の顔 声
う

手のぬくもり 暖かさ
あたた

ふと 我にかえると
われ

孫の小さな手
まご

どこまでも澄んだ瞳
す ひとみ

黄花色の秋桜 私にとって大事な
きはないろ コスモス

思い出草
おも